

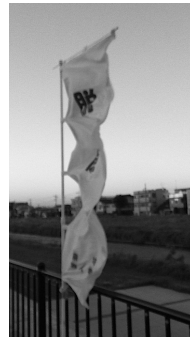
# さようなら原発 越谷連絡会

会報 No.33

●発行 さようなら原発越谷連絡会 編集委員会

●連絡先 〒343-0023 越谷市東越谷 1-5-17 TEL&FAX 048-962-8052 <http://sayonarakoshi.jimdo.com/>

- さようなら原発越谷連絡会は、再稼働反対国会前抗議行動（毎金曜日）と、第3金曜日には、越谷独自の集会とパレードを行っています。
- 第3を除く金曜日は新越谷駅上りホーム後方（越谷駅寄り）に、16時半集合・出発しています。
- 独自に国会前に向かわれた場合は、国会正門から見て左側歩道の国会に近い場所を定位置にしています。
- 第3金曜日の、越谷独自行動（3金脱原発越谷行動）は、越谷市役所東側の中土手広場に18時集合・開始で、どなたでも発言自由のアピールタイム。歌や楽器でのアピールもOKです。こののち、越谷駅までパレードをしています。誰でも、どなたでも参加していただける集会・パレードです。ぜひ、ご参加ください。
- お問い合わせは080-1229-3661(飛山)/080-5670-7117(増田)/090-4010-1334(石山) まで



5月16日(金)の第13回。この日も強烈な風。のぼりも風にはためいてこの通り。どういわけか、いつも雨模様だったり、風が吹いたり、季節外れの寒さだったり。アピールタイムには直近に遠征した福島の記事があり、具体的に福島の現状を知ることができました。参加者は風にも負けず、今回も64名でした。

4月18日(金)第12回も、雨でした。かさをさす人も。それでも39名が参加。



昨年4月19日の「3金デモ」第1回。75名が集まった

私たちが越谷地域で始めた3金デモが、この4月で1周年を迎えた。このきっかけは、毎週金曜の官邸前デモに参加していた飛山、増田の2人が、帰りに寄るいつもの居酒屋での雑談の中で生まれた。地域でやるのもいいのではないか。出来ればやりたい。とはいえ、どれだけの人たちが協力してくれるのか。デモという一つの形が出来たのか。不安というより、予測不可能な中で、最後は、2人でもやる。という思いが。越谷3金デモの始まりであった。忘れもしないのは、最初の集まりの人数である。ほとんどロコミだったのに、思ったより参加する人たちが多かった(70人を越えていた)。ホッとしたことでもあったが、むしろ越谷の人々の脱原発に対する意志に感動した。以来、毎月行われる3金デモは、月を経る中で様々な変化をつくりだしていった。最初は、伝統的スタイルとも言えるべき、紋切り方の集会であり、デモであったが、少しずつ変化が生まれてきた。それは、新しい女性たちの参加であった。その一つは、集会での司会者が元氣な2人の女性になったこと。また、毎回、小さいが、これまでにない柔らかな感覚のピラが配布されるようになった。越谷かんしょ踊り(会津で踊られていた「かんしょ踊り」をパレード用にアレンジしたもの)を集会の時にも練習し、パレードでも踊りながら行進することになった。最近では、歌を歌うことも多くなった。それは、型通りのシユプレビコールではなく、参加者を楽しませるだけでもなく、見ている人たちに、変ったデモだという感じを与えるものとなってきた。

何より、毎回、新しい人が参加してくれるようになった。これまであまりいなかった若い人たち、女性たちが増えていることに、この3金デモの持続性の可能性を感じさせた。そして、私たちの原点である、「脱原発」「福島を忘れない」ということを、毎回の集会での各人の発言の中で、確認している。3・11から3年、福島事故の風化が語られる中で、越谷でも、福島の実情をしっかりと見定め、その問題点について注視し、声を上げ続けている。その福島の実情とは、いまなお、県内外での避難者が13万人もいること、原発事故関連死は(長期避難のストレスなどが死亡原因)、1688人で、震災直後の死者数1603人を超えた。このうち、原発事故との因果関係が判明している自殺者は3年間で、46人になる。被災3県で福島県だけが毎年増加している。これが、事故から3年経つ福島の実情だ。国会での金曜デモが100回を迎えたという。私たちも、「持続こそ」の思いを忘れずに、これからも、地域での集会、パレードを続けることを、1周年を迎えたいま、改めて誓いたいと思っている。(高橋正久)

「脱原発」「福島」を忘れない  
——「越谷3金行動」この1年、そしてこれから

●広野・楢葉・富岡・三春・南相馬

# 「福島1泊旅行」で見たもの

5月11・12日の1泊2日で、「越谷九条の会」メンバー8人が前代表委員の一人であった秋山胖さん（現在 日本基督教団食品放射能計測所『いのり』運営委員）の案内で福島原発被災地の状況を見学してきました。

11日は常磐自動車道で秋山さんの住む小名浜に立ち寄り、昼食後、津波の被害がひどく、建物の土台石しか残っていない塩谷崎辺りを通り、国道6号線（陸前浜街道）に出て、一路、福島第2原子力発電所方向に走りました。

広野町を越え、楢葉町辺りから、秋山さん持参の携帯放射線測定器がガーガー鳴り出しました。富岡消防署を過ぎ富岡交差点に着いたとき、10人ほどの警備員に車は止められました。その右上側に縦2m×横4m程の看板があり、『通行証確認中につき停止をお願いします。』と書かれています。警備員の指示でUターンし、車から降り、測定器を観ました。

地表1mの高さでの空間線量は3・34μ



6号線行き止まりの風景です。右上に見えるのが原稿文中の看板（通行確認中の停止を求めます）。測定器には、確かに3.34μ Svの値が表示されていました

Svでした。巡回中の静岡県警から来ている警察官は「放射量被爆のこともあり、二週間交代制になっている。」と話していました。

6号線から町中に入りましたが、消防署・警察署や役場の中も空っぽ、道路は至る所バリケードが張り巡らされています。家々のカーテンは開けられており、家の中は丸見ですが、人影は一つもありません。住民が避難し、ひっそりと静まり返っている家々を見ながら、ふと、「自分だったら……」と考えると、しばらく声も出ませんでした。こんな経験は初めてでした。カラスの見えないことにも気付き「食べ物がないからだなあ」と思うのでした。

夜はいわき市に戻り、湯本温泉『伊勢屋』のかけ流し湯で疲れをとり、夕食で出されたご馳走は気合をいれて食べるほど大満足なものでした。

12日は朝食をしっかりといただいた後、まず、秋山さんのお勧めで、NPO法人ケアステーション「ゆうとびあ」（障害者施設）で「まちこちゃんのごまクッキー」など、買い物支援のため船引三春へ。三春町は原発事故後、唯一安定ヨウ素剤を配布し、ガラスバツジの配布も早かったが、いまだにホットスポットも残っていると聞かれています。

その後、川俣町を通って南相馬市へ。この間は道沿いから明らかに除染作業されたとわかる田畑が見えます。また、所々に除染土が詰められたと思



町中いたるところに張り巡らされているバリケード

われる青や黒の袋が幾つも幾つも積み上げられていました。また、ところどころで測定値を示すガーガーという音が鳴ったりして、地域住民の健康のことが気になりました。

南相馬市の鹿島上沼田では、秋山さんの知人らが運営しているのNPO法人「あさがお」に昼食弁当を用意してもらっていました。食後は「あさがお」の西理事長の案内で被災者用仮設住宅を見学し、その足で、陸前浜街道を浪江町・双葉町方面をめざし、小高まで進みました。この先は大掛かりな除染作業が行われていて進めませんでした。

車を止めて、一面に広がる被災地を眺めていると、骨と皮ばかりに痩せた狐が一匹出てきてこちらを見つめています。なにも貰えないかと思つたか、草むらに戻っていききました。西さんの話ではこの地方では盗難が多かったようです。

帰途は南相馬市から霊山を越え、福島駅で秋山さんと別れ、私たち越谷組は福島西から東北自動車道に入り、安全運転で越谷へ戻りました。

福島の事故については、テレビや新聞、雑誌などで聞いたり見たりしていました。が、「百聞は一見に如かず」という言葉の重みを強く知らされた旅行でした。

（飛山幸夫）

●ミニレポート

## 中筋純「ギャラリートーク」に参加して

中筋純写真展『チエルノブイリ・福島』が4月2日から6日まで、草加市立中央公民館ギャラリーで開催されました。最終日の6日には、ご本人のギャラリートークが行なわれ、貴重なお話をきくことが出来ました。中筋さんが当日パワポの映像とともに語ってくれたことを簡単に要約してレポートします。

### ■絆と分断

福島第1原発の事故で、家族・親戚・友人が分断されることがなければ今頃は海や湖や森林の観光もさかんだったはず。福島は農業や畜産のさかんな場所でした。

ではどのように解決してばいのでしょうか。まずは福島の現状を「見て」「感じ」なければなりません。全員が全員見に行つていいとは思っていません。成人以下と子孫を残す計画のある人は、行くのはよく考えてからのほうがいいです。それ以外の人は内部被爆に注意すればかまいません。衣服を処分して念入りにシャワーを浴びれば、外部被爆はある程度なくなります。

※（時間や金に余裕の無い人は中筋純さんの写真集を見るのも手です）。

福島とチエルノブイリにおける、政府の対応の差も問題です。30キロ圏内の立ち入り制限がチエルノブイリとはまったく違います。チエルノブイリでは簡易的なゲートではなくちゃんとゲートを設けています。そして、福島のように、地元のアルバイトではなく、専門の警備員がゲートを管理しています。チエルノブイリの30キロ圏内は車両制

# ●吉野裕之さんからの報告 福島の子どもたちの今

5月17日、浦和コミュニティセンターにて「福島っ子の現状を知り、保養を支援する集い」が開かれました。約20名が参加。主催は「福島っ子保養支援・交流プロジェクト埼玉」

福島市から吉野裕之さんをお招きして「福島の子どもの今」について報告をしてもらいました。吉野さんは「NPO 法人シャローム災害支援センター」及び「日本子どもNPO」のスタッフとして活動しています。福島に住み、震災後は妻、子を京都に避難させ、本人は「子供たちを放射能から守る福島ネットワーク」の保養支援の中心メンバーとして精力的に活動。福島の状態を知らせるため各地で講演してくれています。以下吉野さんの報告から。

「今年は4月の代々木公園でのアースデーに福島の子ども達を150人連れて参加させていただきました。」

今回で3年目の参加でしたが今回は生後10か月の赤ちゃんも参加しました。その子は生まれて初めて芝生にじかに座るということを経験できました。内部被ばくからの「保養」というと親の考え方もそれぞれです。その意識の差で保養に参加する子と参加しない子がいます。子どもたちの中で経験の差が生まれてしまいます。伊達市ではこの差をなくそうと、学校のクラスごと山形県への移動教室が行われています。交流授業で教員もリフレッシュできています。「保養」という言葉は差別につながるという意見もあり、「リフレッシュプログラム」「交流」という言葉の方が福島にとっては良いようです。また福島の子の健康面では肥満傾向の子が増えてきています。原因は運動不足から来ています。運動能力の低下も著しいデータが出ています。



吉野裕之さん（5月17日、浦和コミュニティセンターで）

自分の思うままに外で遊べないことが子ども達の向上心が育たないことに繋がっているのですね。学校側の対処では今後、室内での運動カリキュラムを増やすなどの工夫をする予定です。子ども達が室内運動を出来るように企業の「楽天」がお金を出して70mダッシュが出来るほどの大きなド

ームを建設中です。「ヘップキッズ郡山」では医師の発案により体育施設で子供たちの運動遊びが出来るようになりまし。多くの子ども達が訪れて遊んでいきます。しかし問題の対処をするだけではなく、子どもが自然の中で遊べていないという不自然さを忘れないようにしたいです。

それから私たちNPOは子ども目線で放射能測定すること大切にしています。震災から3年経ちますが、多くの保育園がお散歩を解禁できないままです。福島市内で3年前には歩いていたらお散歩コースを保育士さんたちと一緒に放射能測定させてもらいました。来年で定年になるという保育士さんは「もう2度と子ども達とこの道を一緒に歩く事が出来ない」と泣きながら歩いていました。ホットスポットファイナダーという機械でお散歩コースの放射能を測定した結果、1カ所汚染が高い所がありました。そこを回避すれば、風のない日ならお散歩は可能かもしれないという希望が見えてきました。

全国知事会では震災を経て何かあった時、県をまたいで困ったときはサポートしていく繋がりがつくりをして行こうと話が進んでいます。そのまとも役が埼玉県知事さんだそうなので、今度ぜひお会いしたいと思っています。」

以上、吉野さんから詳しいお話を聞くことが出来ました。子ども達が自己肯定感をつけるには①自然と触れ合うこと。②体力、免疫力がつけられる社会的環境③親・地域から支えられている実感・精神的な安らぎが大切だそうです。

7月下旬に「福島っ子交流・保養プロジェクト」では寄居の保養施設をお借りして福島の子ども達を招待させてもらう予定です。自然豊かな中で、ありのまま元気いっぱい走り回れるように準備をしています。♪キャンプ実現のためスタッフを大募集しています!!!

同封していただいた「寄居の保養キャンプ」のチラシをぜひ、お読みください。1日でもよいのでスタッフのご協力出来る方はぜひご連絡ください。（武井090・8170・9674）

自然豊かな福島が汚染されてしまったことはとても悲しいことです。その現実の中から懸命に出口を探る吉野さんの謙虚さに希望を感じました。子ども達の未来をよい方向へ創れるように皆さんのお力添えを是非お願いします。

（越谷サステナの会 武井由貴）

限があり、圏外へは車を持ち出すことができません。これに比べて、福島では除染もせずにゲートを通り過ぎ、ガイガーカウンターで計測するだけで除染は一切しません。

■帰還と除染  
子孫を残す計画のない人と成人以上の人は帰還してもかまわないと思っっています。余生をどこで過ごすかを規制されるべきではないです。

チエルノブイリの30キロ圏内で暮らしている人はいます。自給自足のような生活をしています。作物の放射線量は高いですが、生きています。人間の中には放射能に強い人や弱い人がいます。これは酒や添加物への耐性やアレルギーと同じくらい個人差があります。そのくらい人体と放射能の害との関係には未知な部分があります。ですから、帰還して体調を崩さない限り住み続けてもいいと思っっています。

除染について言えば、福島でやっている除染は「除染」ではなく「草刈り」です。もしくは地表を少し剥がしているだけのことで、風が吹いたら元の線量に戻ります。

では真の除染とは何でしょう。原始地球はもともと放射能まみれでした。それが、EM菌（有用微生物群）のおかげで動物や植物がすごしやすい線量に下がりました。あとは重曹です。もうひとつは向日葵や麻などの植物が線量を下げてくれます。この3種類の方法で帰還できる人が増えるといいですね。



（浜野武彦）

## 川内原発再稼働やめろ！ 0601 官邸・国会前☆大抗議

- 日時：2014年6月1日(日) 14:00～17:00
- 場所：首相官邸前・国会議事堂周辺
- 主催：首都圏反原発連合

## さようなら原発川越パレード

- 日時：2014年6月7日(土) 15:00 集合 15:30 出発 ●場所：川越駅東口・緑地公園 (川越市駅よりの踏切脇)
- 主催：さようなら原発川越の会 [http://blogs.yahoo.co.jp/sayonara\\_nukeskawago](http://blogs.yahoo.co.jp/sayonara_nukeskawago)
- 連絡先：田中重仁法律事務所・049-226-6171

## 川内原発を再稼働させない！ さようなら原発 6・28 集会 (仮)

- 日時：2014年6月28日(土) 13時開会
- 場所：明治公園
- 主催：さようなら原発 1000万人アクション



カチャーシーで盛り上がるフィナーレ

(上野水上音楽堂)

この日のために作られたこの曲は、私たちの思いがすべて込められている歌だと思えました。ステージでは、障害をもつ方・沖縄の方・アイヌ民族継承者の方・在日韓国人の方・福島の方が、スピーチをしてくださり、大きな感動が広がっていました。

いのちの平和に 原発はいらない  
いのちの平和に 戦争はいらない  
いのちの平和に 差別はいらない  
みんなで歩こう 光の方へ  
あなたと私で 世界を変えよう  
みんなで歌おう 希望の歌を  
あなたと私で 明日をつくろう

快晴の5月11日(日)、上野公園に全国から1000名の女たちが集まりました。福島からも貸切バスでたくさんの方たちが参加しました。  
最初に「光のほうへ」をみんなで歌いました。

## 「5・11 女たち・いのちの一大行進」に参加して

パフォーマン斯拉イブも、アイヌ舞踊・古代フラダンス・こぐれみわぞうさん・寿さん・李政美さんらが歌や踊りで会場を盛り上げました。ゼロノミクマ(脱原発を訴えるソーシヤルゆるキャラ)の存在も大きかったです。

フィナーレでは、音楽に乗って、会場の多くの女たちが一斉に踊り出しました。沖繩のカチャーシーと、会津磐梯山にのつての「かんしょ踊り」(民衆の抵抗の踊り)も武藤類子さんを先頭に踊られました。参加者みんな心通じ合ってるなあ〜って感じました。

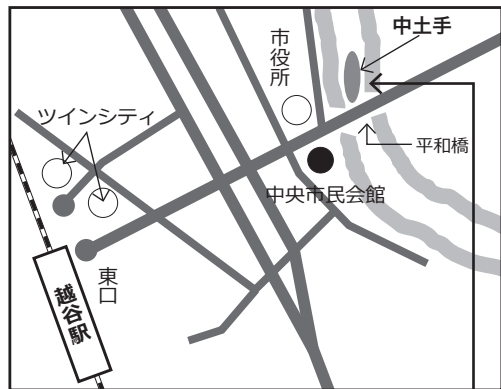
ステージでの「★希望のフェス★」の後のパレードは「★ゆっくりウオーク★」。この「ゆっくりウオーク」では、1.2kmのコースを参加者が、ゆっくりゆっくり大行進したのでした。

一般的なデモは進む速度が早かったり信号でせかされたりします。それに、長い距離を歩くことが多いので、体力のある方は平気なのですが、今回は、車いすの方も一緒にウオークなので、坂道もない優しいウオークでした。

鳴り物やシュプレヒコールもなしで、歌声でアピールしましょうという新しい取り組みでしたので、おだやかでのんびりしたウオークになりました。参加者全員がピンクのリストバンドをし、歌い、踊り、ウオークする姿にとっても感動しました。

「5・11女たち・いのちの一大行進」の賛同人は、日本だけにどまらず、世界中からでしたし、呼びかけ人も101名(5/9時点)と、たくさんの方々がこの集まりに心を寄せました。

ところでこの「5・11 女たち・いのちの一大行進」は、どのように報道されたのでしょうか？ 何人かの知り合いに報道の様子を聞きました。なぜか、大きく取り上げられなかったようなのです。



越谷市役所東側  
中土手広場(平和橋下)です。  
午後6時。待っています!



ゼロノミクマも頑張っているぞ!

子どもたち孫たち、未来の子どもたちが健やかに暮らしていけるよう、今こそ、声をあげ、共に頑張っていきたいと思います。(宮前真知子)

新聞に大きく載ってもいいほどの集まりだったと思いましたが、テレビのニュースでも取り上げられず、朝日新聞にほんの少し載っただけでした。  
1000名もの女たちが集まり「原発・戦争・差別はいらない!」と歌い発信したのに、その声は人々にほとんど響かせられなかったように思います。  
女たちの願いは、女たちが泣かないで済む社会をつくることです。  
安倍政権になってから、私たちの願いとは反対に進んで行っている日本ですが、女たちは原発も戦争も差別もいらぬ!と願っているのです。  
今の日本の政治や報道にとても不安を感じますが、たゆまず力を合わせて伝えていけば必ず私たちの願いに近づいていけると信じています。

「さようなら原発越谷」のホームページをご存知ですか? CRは1面タイトル下にあります。ブログ、フェイスブック、ツイッターへもリンクしています。